

Harmony

学校だより NO.28
令和2年9月

図書室に実ったぶどう



体育大会の案内を配布しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、日程や内容が昨年までとは大きく変わっています。保護者の皆様へのお願いばかりで申し訳ありませんが、たくさんの制限がある中でも、体育大会を成功させようとがんばっている子どもたちの気持ちをご理解いただき、どうぞご協力をお願いいたします。

吹奏楽部

9月から活動日が増えました。「♪キセキ」の曲

に導かれるように、音楽室を訪れると、金管楽器パートの児童が練習をしていました。



1年生



生活：あさがおの花で・・・

あさがおの色水で染めた半紙に、あさがおの花と葉っぱを貼ってきれいにラミネート。すてきな下敷きができました。



家庭科：エプロンづくり

お気に入りの柄でマイエプロン制作中です。裁断が終わって、「さあミシン!!!」と思いきや、その前にアイロン掛けや、しつけ縫いがありました。面倒ですが、きれいに仕上げるために必要な手順ですね。

5年生



ミシンよりも、しつけ縫いの方が大変



国語：カタカナ漢字の学習



カタカナの学習では、『ネ』や『ワ』のつく言葉をたくさん見つけて発表していました。



漢字は画数も増えてきます。正しい書き順を覚えることが大切です。

図工：くぎうちトントン

小さい木材をくぎでつないで、好きな形を作っていきます。ウサギやネコなどの動物や車や鉄砲など、子どもたちの発想はいろいろ。

くぎの打ち方を工夫すると、足や手が動いたりタイヤが回ったりしていました。



3年生



9/11 5年生 産業体験学習(石田縞)

鯖江市繊維協会の大滝さんを講師にお迎えし、石田縞について産業体験学習をしました。

「石田縞」江戸時代末期に、現在の石田下町に住んでいた、高島善左衛門によって始められました。農業だけでは生計を維持することが困難な村民を助けるために工場を建て普及しました。木綿の織物ですが、明治から昭和にかけて、女学校や小学校で制服に採用されたことから「学校縞」とも呼ばれて学生たちの憧れ、誇りだったそうです。

その後、「幻の縞」と呼ばれるほど廃れてしまった「石田縞」ですが、今から50年ほど前に伝統織物を後生に伝えたいと復元の活動を始めました。2009年には手織り体験ができる石田縞手織りセンターが開設され、技術の復元と次世代への継承に力を注いでいます。(大滝さんの説明より)

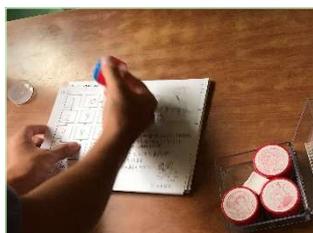


石田縞のはぎれを使って、しおりを作りました。草木染めで染色された糸を使用しているため、とても味わいがあります。



立待小学校のあいさつをさらに素晴らしくするために ～生活委員会 & ボランティア～

立待小学校の自慢の一つに、『あいさつボランティア』という活動があります。朝、登校してきた児童が、自分の意志で校門の前に立って「おはようございます」「あいさつボランティアに参加しませんか」と大きな声で呼びかけます。先週の体育大会全体練習以降、6年生のボランティアが増え、大きな声であいさつをする姿を目にするようになりました。最高学年としての自覚が、いろんな場面で行動となって見え、頼もしく感じます。生活委員会では、「あいさつスタンプラリー」を始めました。ボランティアに参加したら、生活委員がカードにスタンプを押してくれます。15個集めたら、豪華賞品(?)がもらえるそうです。



生活委員から放送でスタンプラリーの方法について説明がありました。

